

目的 前報における高齢者衣服の実態から、より適合度の高い高齢者衣服を設計するには、まず高齢者の静立時の体型を把握して類型化をはかり、分類することが重要であると考へた。そこで、モアレ法により高齢者の後面および前面形状をとらえ、個体差による分類を試み、若年者との形状比較を行って高齢者の体型的特徴を明らかにし、高齢者のための衣服設計の基礎資料を得ることを目的とした。

方法 1980年7月、名古屋市内養護老人ホームの男子43名、女子43名を対象としてモアレ撮影を行い、得られたモアレ縞から様相および縦断線形状分類を試みた。そして、分類タイプの代表者として女子23名を選出し、脊椎弯曲状態について山口氏らが行った脊椎曲線の数量化の方法を適用して分析した。さらに各縦断線を重合して後面シルエットによる分類を試みた。

結果 1) 後面におけるモアレ縞の様相は、背・背腹部のパターンが消失、ないし融合を示すものが多く、最後突部の極は肩甲下角点より下方に位置するものが過半数を占めた。2) 脊椎の弯曲状態は若年者に対し胸椎弯曲最突出部における角度が小さく、弧の実長は長くなる傾向が認められた。また、腰椎の最深点の角度は増大し、第7頸椎点からの垂線と第7頸椎点と胸椎・腰椎の変曲点とを結んだ直線のなす角は大きく、高齢者体型特性の前傾姿勢が多い。3) 後面のシルエットは高齢者の場合、正中線、最後突線、肩甲下角線、また、これらの交錯で形成されるものがあり、そのタイプは6種となった。